

第15次 吹田市水道事業経営審議会

第6回

すいすいビジョン2035
投資財政計画について

近年の全国・大阪府における
料金改定の
実施状況について

令和8年(2026年)3月23日(月)
吹田市水道部



第15次水道事業経営審議会において

諮問「健全経営の持続に向けた考え方と料金水準について」
に関する今後の審議予定内容

第5回
(R7.11.21)

- 諮問「健全経営の持続に向けた考え方と料金水準について」

第6回

- 投資財政計画（シミュレーション条件、収益的収支と資本的収支、経営努力の取組など）
- 近年の料金改定実施状況（全国・大阪府）

第7回
(R8.5月頃)

- 水道料金算定の仕組み（総括原価方式など）
- 料金算定シミュレーションの提示（シミュレーション案、基本料金割合と逓増度など）

第8回
(R8.7月頃)

- 諮問審議の意見整理
- 答申案 その他審議

第9回
(R8.9月頃)

- 答申



第15次水道事業経営審議会において

諮問「健全経営の持続に向けた考え方と料金水準について」
に関する今後の審議予定内容

第5回
(R7.11.21)

- 諮問「健全経営の持続に向けた考え方と料金水準について」

第6回

今回

- 投資財政計画（シミュレーション条件、収益的収支と資本的収支、経営努力の取組など）
- 近年の料金改定実施状況（全国・大阪府）

第7回
(R8.5月頃)

- 水道料金算定の仕組み（総括原価方式など）
- 料金算定シミュレーションの提示（シミュレーション案、基本料金割合と逓増度など）

第8回
(R8.7月頃)

- 諮問審議の意見整理
- 答申案 その他審議

Point

第6回審議
のポイント

- 「財政状況」への認識
- 「料金改定の必要性」など

「第7回審議」における議論の
材料にさせていただく回

第15次 吹田市水道事業 経営審議会

第6回

すいすいビジョン2035

投資財政計画について

収益的収支と単年度純損益
シミュレーション条件

資本的収支と建設改良工事費
シミュレーション条件

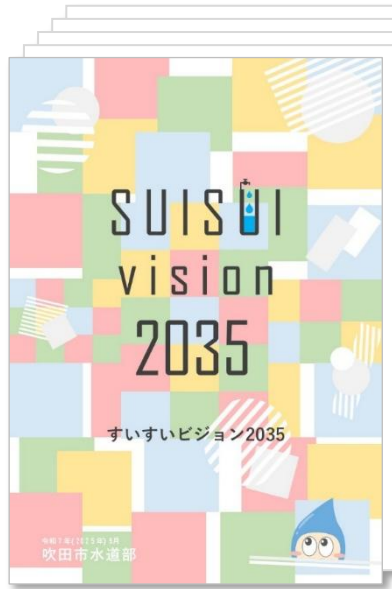
主な経営努力の取組

近年の全国・大阪府における
料金改定の**実施状況**について

今後の**審議内容**

P.70~P.73

投資財政計画



- 水道施設の整備（更新・耐震化）に対する投資
- 財政収支の見通し
(収益的収支・資本的収支、運転資金残高、原価)
- 持続可能な水道事業経営に向けた考え方
(効率化・健全化のための取組方針、財政計画の目標設定)

第8章 投資・財政計画

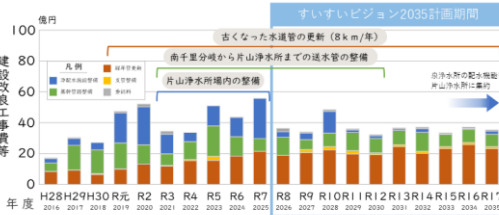
本市における現状の給水量は、コロナ禍以降は横ばいの状況ですが、将来的には人口減少や大口使用者の使用量減少に伴って、水需要と給水収益は減少していくものと見込んでいます。他方、千里ニュータウンの開発に伴って建設された多くの水道施設が老朽化してきているため、水道施設の再構築に向けて計画的な更新・耐震化に取り組んでいます。このような水道施設の整備には多額の費用が必要となるため、平成28年(2016年)に平均改定率10.0%、令和2年(2020年)に平均改定率15.2%の料金改定を実施し、その財源確保に努めてきました。

給水収益の減少が見込まれる中、近年における資機材や労働単価などが上昇していることにより、今後も多額の費用が発生する状況は続く見通しであり、より一層の経費削減に努めるとともに、料金改定をはじめとした多様な収入確保策を検討する必要があります。

1 投資の見通し

これまで、すいすいビジョン2029に基づき事業を推進してきましたが、施設整備工事において、現場状況による予定していなかった工法の変更をはじめ、予見外のことや難しい工程の変更、施工量の増加があったことに加え、近年における資機材や労働単価の上昇等により、投資額は増加傾向にあります。

このような厳しい経営状況の中にあっても、より強靱な水道システムを構築するためには、引き続き施設の更新や耐震化などの事業を事業に組み込むことが重要で、計画期間における建設改良工事費の見通しは図8-1のとおり、主に浄水所の配水機能を片山浄水所に集約させるための工事のほか、経年化した管路の更新事業として年間40億円程度の事業費が必要で、今後10年間の総事業費は367億円と見込んでいます。



2026~2035 総事業費 367億円	配水施設整備 31億円	管路更新 94億円	経費更新 218億円	支管整備 14億円	委託料 10億円
----------------------------	----------------	--------------	---------------	--------------	-------------

図8-1 建設改良工事費等の推移と見通し

2 財政収支の見通し

(1) 財政収支一覧

今後10年間の財政収支を以下の表8-1及び表8-2に示します。収益的収支(表8-1)では、水道事業収益における料金収入が、水需要の減少等によって減少することが見込まれます。一方、水道事業費用では、浄水所の配水機能を片山浄水所に集約することによる受水費の増加や物価及び人件費の上昇による委託料の増加などを見込んでおり、計画期間にかけて増加していく見通しです。令和10年度(2028年度)以降、純損失が恒常的に発生するものと見込んでおり、財源確保に向けた取組が必要です。

資本的収支(表8-2)では、計画的かつ継続的な施設整備に伴って、毎年多額の建設改良費を計上しています。企業債については、建設改良工事費に見合った額の借入れを見込んでいることから、計画期間内において、25億円程度の収支不足が継続的に発生する見通しです。

表8-1 今後10年間の収益的収支一覧 (単位: 百万円、税込)

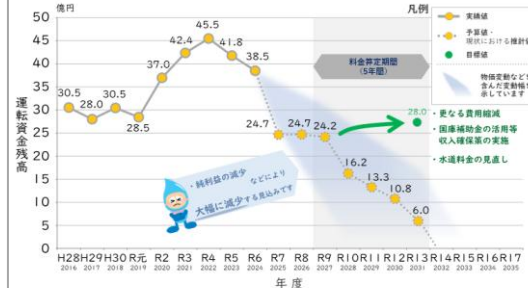
科目	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
水道事業収益	7,652	7,677	7,505	7,446	7,312	7,220	7,063	7,278	7,180	7,203
料金収入	6,762	6,724	6,656	6,604	6,593	6,503	6,425	6,362	6,299	6,251
加入金	399	359	359	359	359	359	359	359	359	359
その他	591	594	490	483	600	563	779	557	522	593
水道事業費用	7,434	7,509	7,708	7,550	7,634	7,643	8,981	8,152	9,139	9,206
職員給与費	1,128	1,074	1,113	1,059	1,089	1,096	1,132	1,126	1,153	1,164
受水費	2,159	2,147	1,979	1,972	1,846	1,839	1,819	2,521	2,508	2,502
委託料	707	724	727	777	815	831	924	847	886	946
減価償却費	1,806	1,895	1,912	2,039	2,085	2,125	1,954	2,029	2,062	2,050
その他	1,634	1,669	1,977	1,703	1,799	1,782	4,062	1,629	2,530	2,543
単年度純損益	218	168	▲203	▲104	▲122	▲218	▲2,328	▲874	▲1,959	▲2,002

表8-2 今後10年間の資本的収支一覧 (単位: 百万円、税込)

科目	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
資本的収入	2,121	2,156	2,998	2,100	1,826	2,078	2,013	1,914	2,114	1,971
企業債	2,082	2,117	2,959	2,061	1,787	2,039	1,974	1,875	2,075	1,932
その他	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39
資本的支出	4,503	4,479	5,877	4,592	4,260	4,705	4,836	4,400	4,785	4,662
建設改良費	3,872	3,735	5,093	3,839	3,496	3,929	4,050	3,595	3,953	3,799
設備償却費	631	744	784	753	764	776	786	805	832	863
差引額	▲2,382	▲2,323	▲2,879	▲2,492	▲2,434	▲2,627	▲2,823	▲2,486	▲2,671	▲2,691

(2) 運転資金残高の見通し

令和14年度(2032年度)には、運転資金残高がマイナスに転じる見込みです。持続して健全な水道事業を継続させていくためには、収支ギャップの解消を図ることに加えて、一定程度の運転資金を確保しておく必要があります。



(3) 原価計算

投資・財政計画における令和9年度(2027年度)から令和13年度(2031年度)までの収支から算出した水道事業の費用に対する料金収入の状況は、以下のとおりとなり、現行の料金水準では水道事業の運営に掛かる費用を回収できない結果となっています。



図8-3 水道事業の費用に対する料金収入の状況

3 持続可能な水道事業経営に向けた考え方

(1) 効率化・健全化のための取組方針

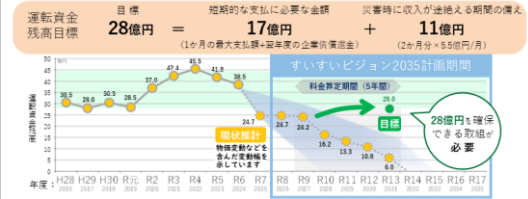
今後10年間の財政収支の見通しでは、令和10年度(2028年度)には単年度純損失が発生するとともに、短期的な支払に必要な金額17億円を下回り、また、令和14年度(2032年度)には、運転資金残高がマイナスに転じる見込みとなっています。水道事業をより多く理解が変化していく中、継続的に施設整備を実施し、持続可能な水道事業を運営していくためには、アセットマネジメントに取り組みつつ、様々な収入確保策の計画的な実施や適正規模の企業債借入れによって、十分な資金を確保する必要があります。

水道料については、3年から5年の期間で検証・見直し作業を実施するほか、経費の削減、サービス向上及び市民への丁寧な説明などにより一層努力し、市民理解を得ようとして、引き続き、水道料金水準の適正化に努めます。

(2) 財政計画の目標設定

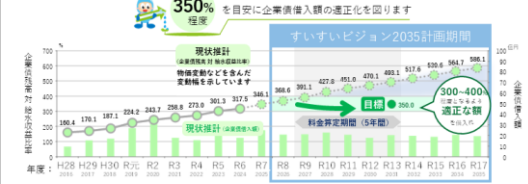
健全な水道事業経営を今後も持続するために、財政計画の目標を以下のとおり設定しています。

目標
 水道事業経営の持続性向上のために必要な運転資金の確保を目標とし、計画期間内における「運転資金残高」の目標額を28億円としています。
 現状のシミュレーション結果では、令和10年度(2028年度)には短期的な支払に必要な金額17億円を下まわる見込みとなっていることから、更なる経費削減に努めながら、令和9年度(2027年度)までに料金改定を含めた収入確保策を実施します。



管理指標：給水収益に対する企業債借入れの割合

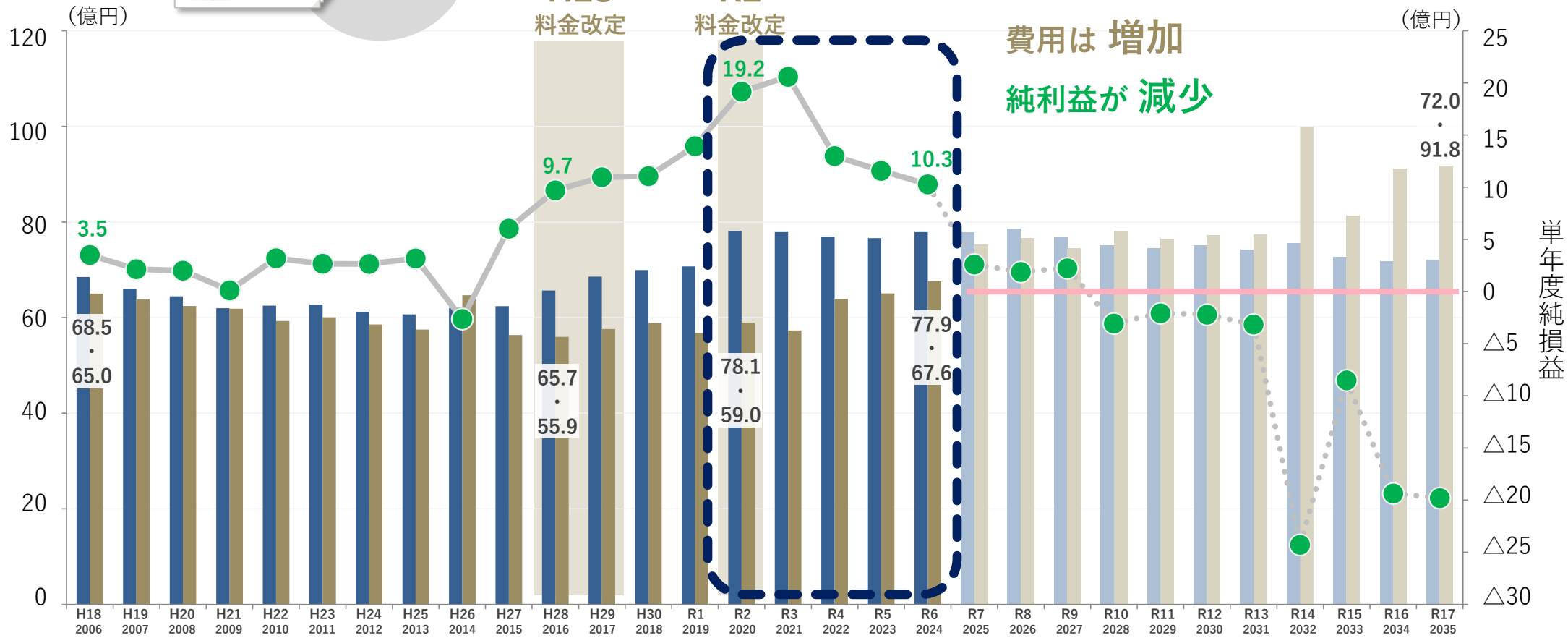
企業債への適度な依存は、近年における利率が上昇している状況において、現世代への支払利息の増加といった影響や、将来世代に過度な負債を強いることにつながります。令和10年度(2028年度)には、給水収益に対する企業債借入れの割合が400%を上回り、不適正な状態となることから、現世代及び将来世代の負担のバランスを考慮しながら、企業債借入れ額の適正化を図ります。





諮問書
参考資料
6ページ

水道事業収益・水道事業費用

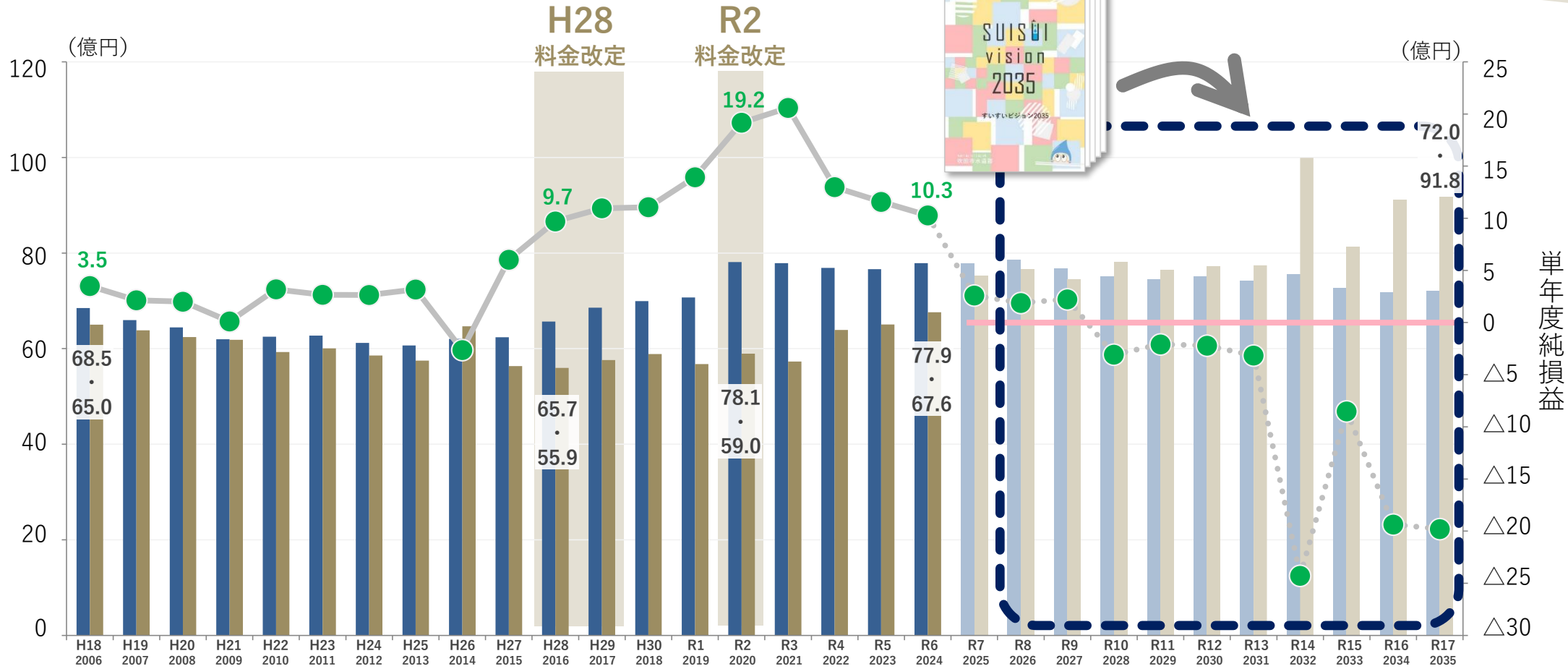


凡例

水道事業収益			
 実績値	 すいすいビジョン2035_推計値 (R7決算見込み・R8当初予算反映)	68.5	当該年度の 水道事業収益 (億円)
		65.0	当該年度の 水道事業費用 (億円)
水道事業費用			
 実績値	 すいすいビジョン2035_推計値 (R7決算見込み・R8当初予算反映)		

単年度純損益		
 実績値	 すいすいビジョン2035_推計値 (R7決算見込み・R8当初予算反映)	

水道事業収益・水道事業費用



凡例

水道事業収益		
 実績値	 すいすいビジョン2035_推計値 (R7決算見込み・R8当初予算反映)	68.5 ・ 65.0 当該年度の 水道事業収益 (億円)
水道事業費用		
 実績値	 すいすいビジョン2035_推計値 (R7決算見込み・R8当初予算反映)	当該年度の 水道事業費用 (億円)

単年度純損益	
 実績値	 すいすいビジョン2035_推計値 (R7決算見込み・R8当初予算反映)

収益的収入



収入の約9割が「給水収益」です

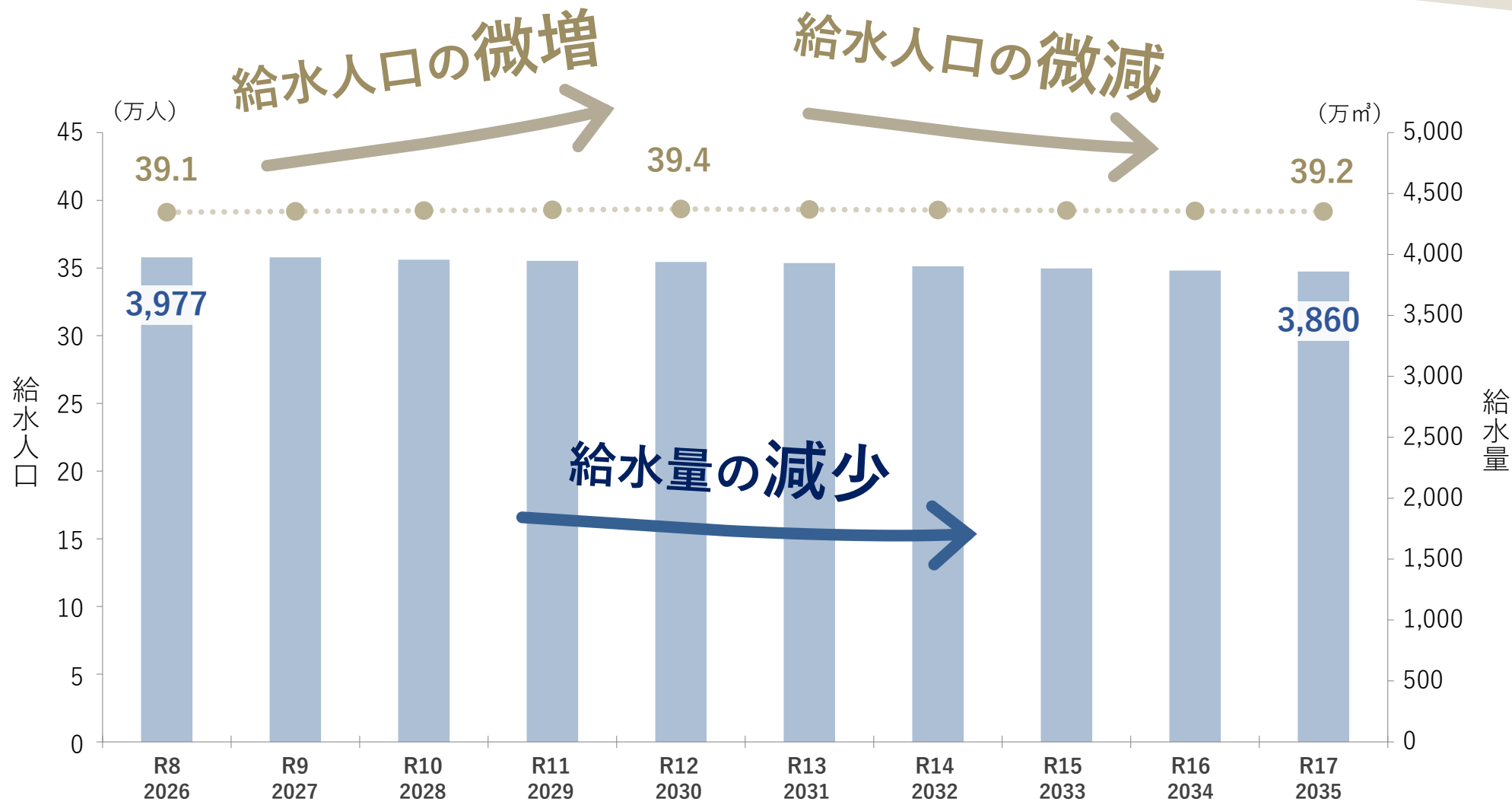
給水人口	吹田市第4次総合計画の推計値を採用
給水収益	有収水量 供給単価 節水や一層の少量使用化が進むものとして推計
加入金	近年の最低金額を採用
長期前受金戻入	第7章_施設整備計画2035における施設整備の内容を反映
その他	過去3年間の平均値を採用

収益的支出

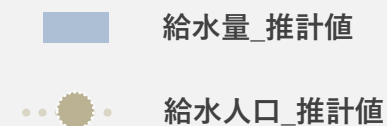


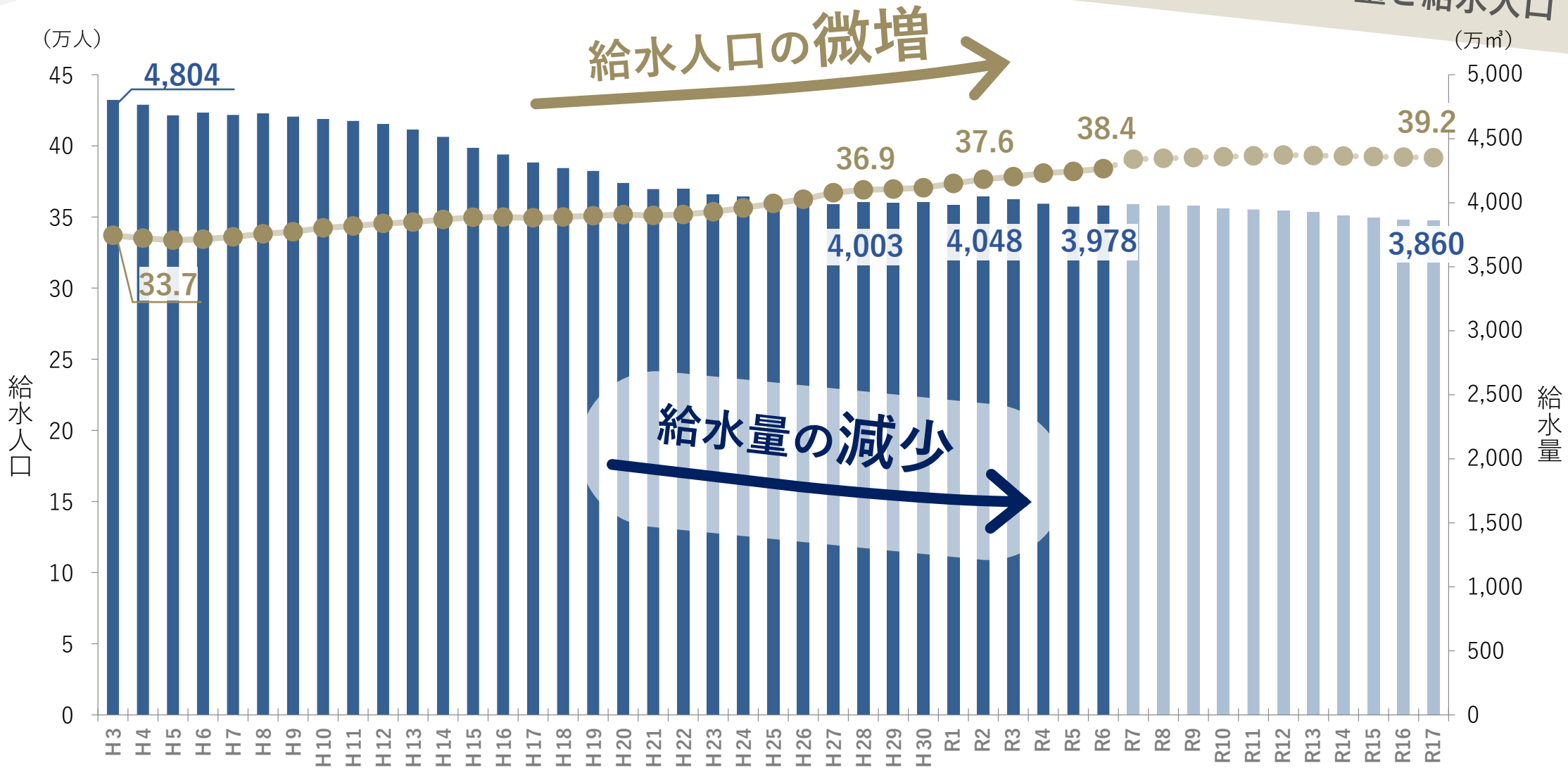
「水づくり」や「維持管理」に掛かる費用です

職員給与費	人事院勧告による給与改定の影響を大きく受けたR7予算の数値をベースに推計
動力費	過去実績値を基に計画期間内の水運用状況の変化を反映
修繕費	過去3年間の平均値及び第7章_施設整備計画2035における施設整備の内容を反映
委託料	過去3年間の平均値及び第7章_施設整備計画2035における施設整備の内容を反映
受水費	過去実績値を基に計画期間内の水運用状況の変化を反映 受水単価は現行料金
固定資産除却費	第7章_施設整備計画2035における施設整備の内容を反映
減価償却費	第7章_施設整備計画2035における施設整備の内容を反映
その他	過去3年間の平均値を採用



凡例





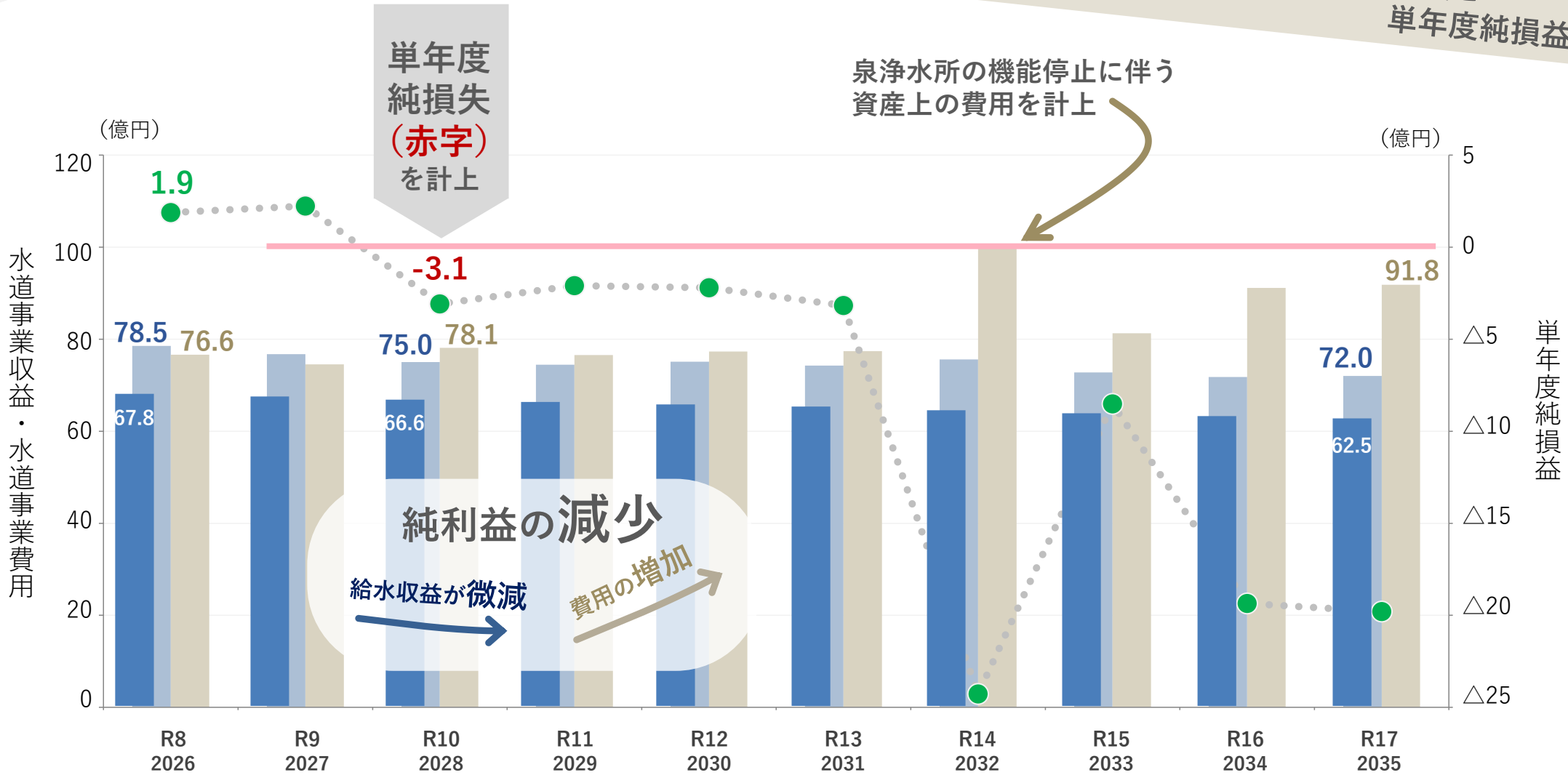
凡例

給水量

- 実績値
- すいすいビジョン2035_推計値

給水人口

- 実績値
- すいすいビジョン2035_推計値



水道事業収益・水道事業費用

単年度純損益

令和10年度（2028年度）以降
純損失が恒常的に発生



施設整備に充てる
積立金の不足につながる

凡例

- 水道事業収益_推計値
- 水道事業収益のうち給水収益_推計値
- 水道事業費用_推計値
- 単年度純損益_推計値

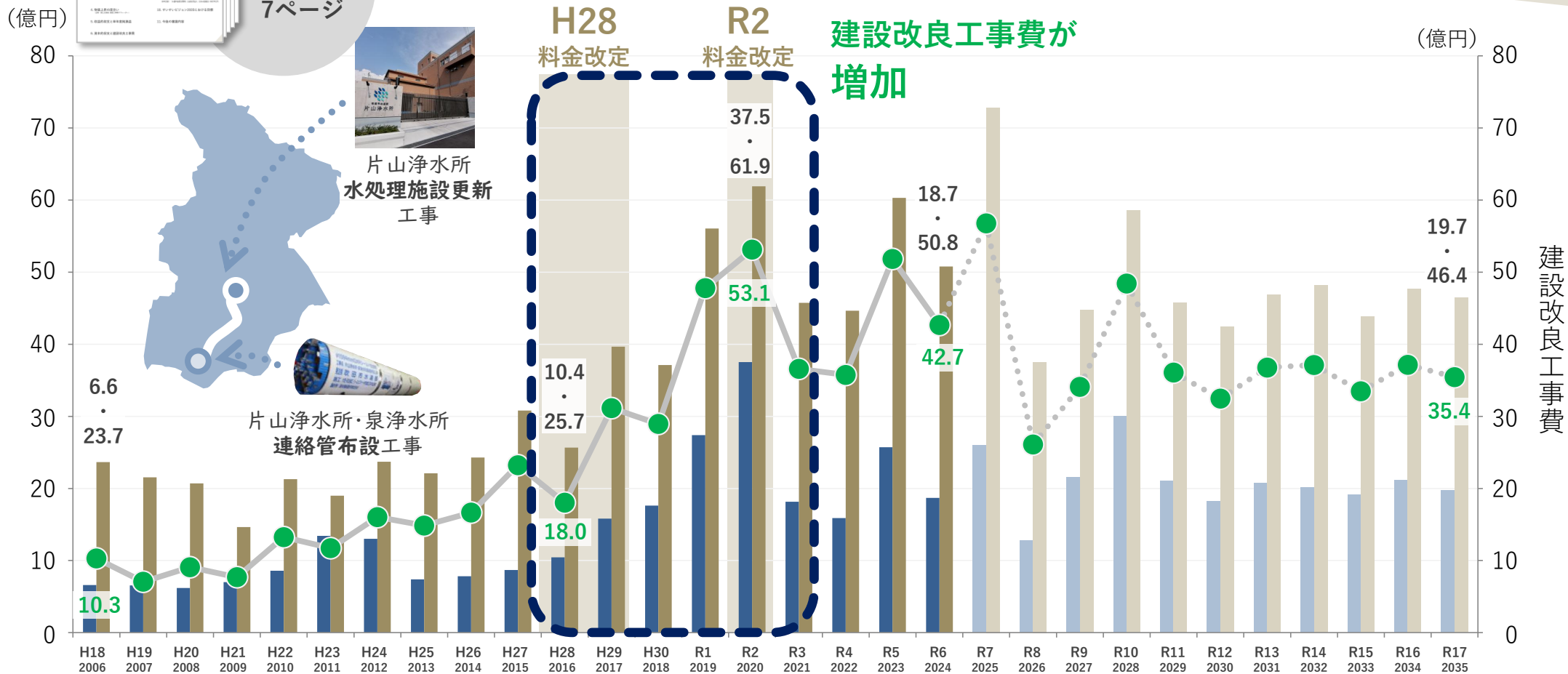


諮問書
参考資料
7ページ



片山浄水所
水処理施設更新
工事

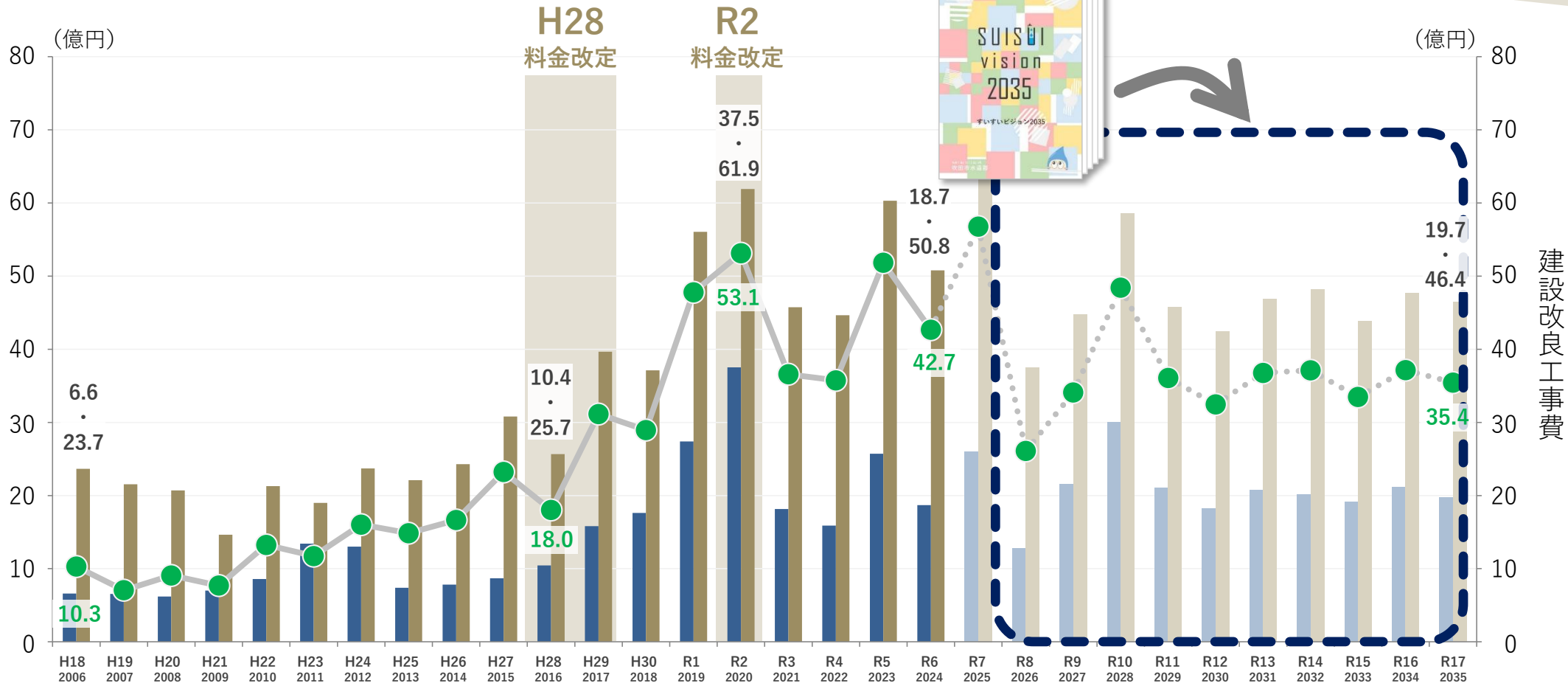
片山浄水所・泉浄水所
連絡管布設工事



凡例

資本的収入	
	実績値
	すいすいビジョン2035_推計値 (R7決算見込み・R8当初予算反映)
6.6	当該年度の資本的収入 (億円)
23.7	当該年度の資本的支出 (億円)
資本的支出	
	実績値
	すいすいビジョン2035_推計値 (R7決算見込み・R8当初予算反映)

建設改良工事費	
	実績値
	すいすいビジョン2035_推計値 (R7決算見込み・R8当初予算反映)



凡例

資本的収入

- 実績値
- すいすいビジョン2035_推計値 (R7決算見込み・R8当初予算反映)

6.6
・
23.7

当該年度の資本的収入 (億円)

資本的支出

- 実績値
- すいすいビジョン2035_推計値 (R7決算見込み・R8当初予算反映)

当該年度の資本的支出 (億円)

建設改良工事費

- 実績値
- すいすいビジョン2035_推計値 (R7決算見込み・R8当初予算反映)

資本的収入

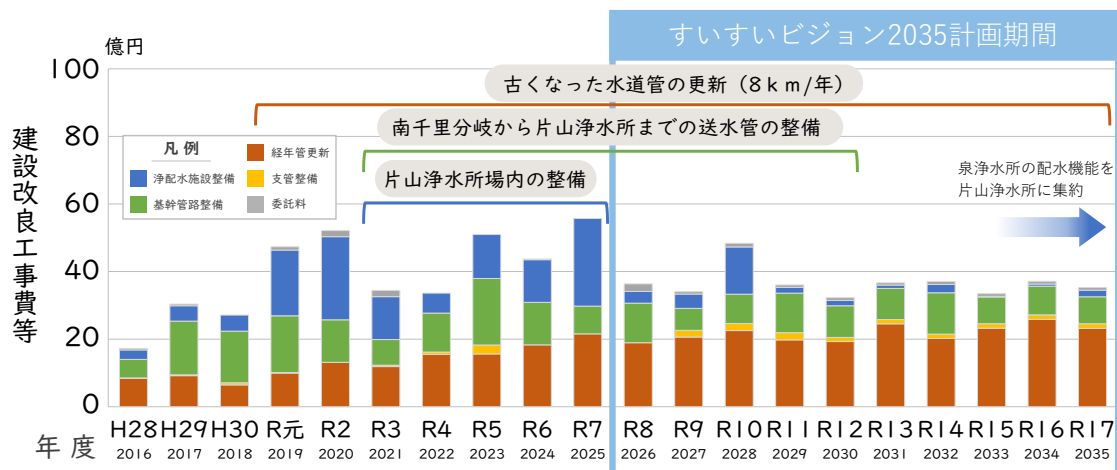
収入は、ほぼ「企業債」による収入です

企業債	第7章_施設整備計画2035における事業費の規模に応じた企業債借入れを実施
国庫補助金	計上せず
その他	他会計負担金（消火栓設置費）は過去3年間の平均値を採用

資本的支出

水道施設整備（更新・耐震化）に掛かる費用が大半を占めます

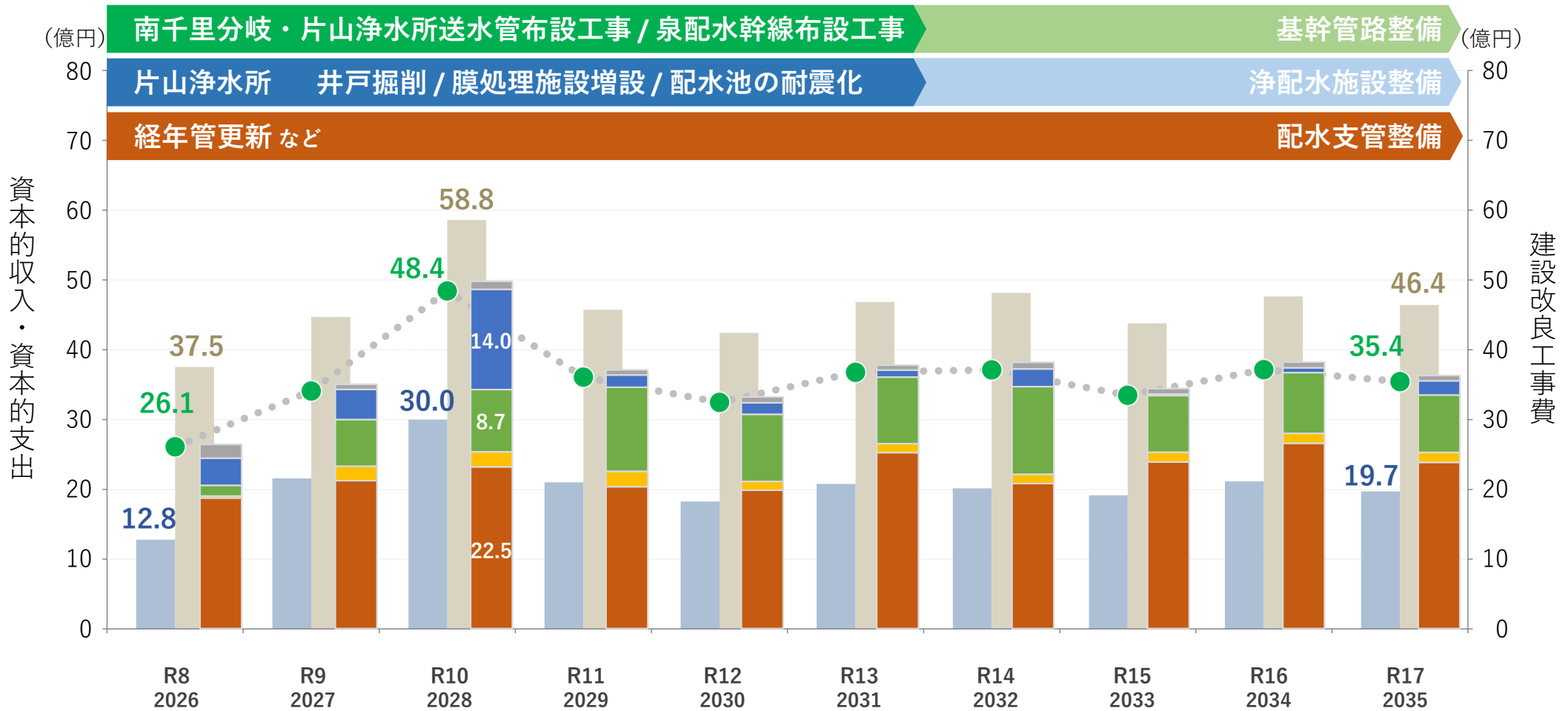
建設改良工事費	第7章_施設整備計画2035における施設整備の内容を反映
その他	過去3年間の平均値及び計画期間内に予定しているものを計上
企業債償還金	企業債の借入れ状況を反映 償還期間40年、元利均等方式で計上



2026~2035
総事業費
367億円

浄配水施設整備	基幹管路整備	経年管更新	支管整備	委託料
31 億円	94 億円	218 億円	14 億円	10 億円





毎年度**35億円程度**の建設改良工事費（施設整備費）を予定

老朽化が進む水道施設の再構築事業を
着実に進め、強靱化をを図る上で必要な投資

凡例

- 資本的収入_推計値
- 資本的支出_推計値
- 建設改良工事費_推計値
- 委託料
- 浄配水施設整備費
- 基幹管路整備費
- 配水支管新設費
- 経年管更新費



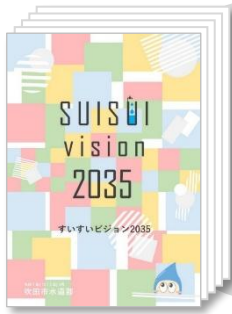
資本的収入・資本的支出

建設改良工事費

令和8年度予算
Pick UP



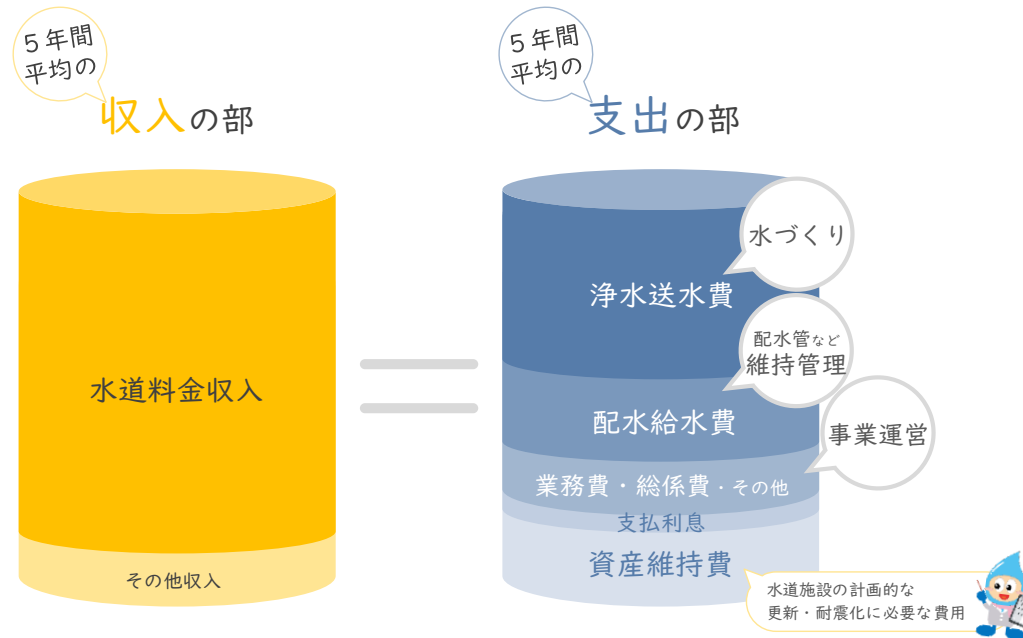
耐災害性の強化 や 古くなった設備・管路の更新 など
に取り組みます



P.72

(3)
原価計算

令和9年度（2027年度）から令和13年度（2031年度）まで
5年間の収支から算出した
水道事業の費用に対する**料金収入**の状況

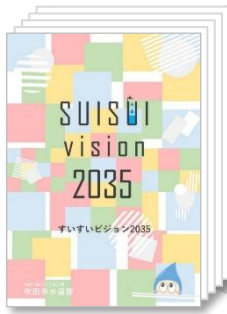


(地方公営企業法_第21条第2項)

水道料金は「公正妥当なものでなければならず、かつ、能率的な経営のもとにおける**適正な原価**を基礎とし、**地方公営企業の健全な運営を確保することができるものでなければならない**」

(水道法_第14条第2項第1号)

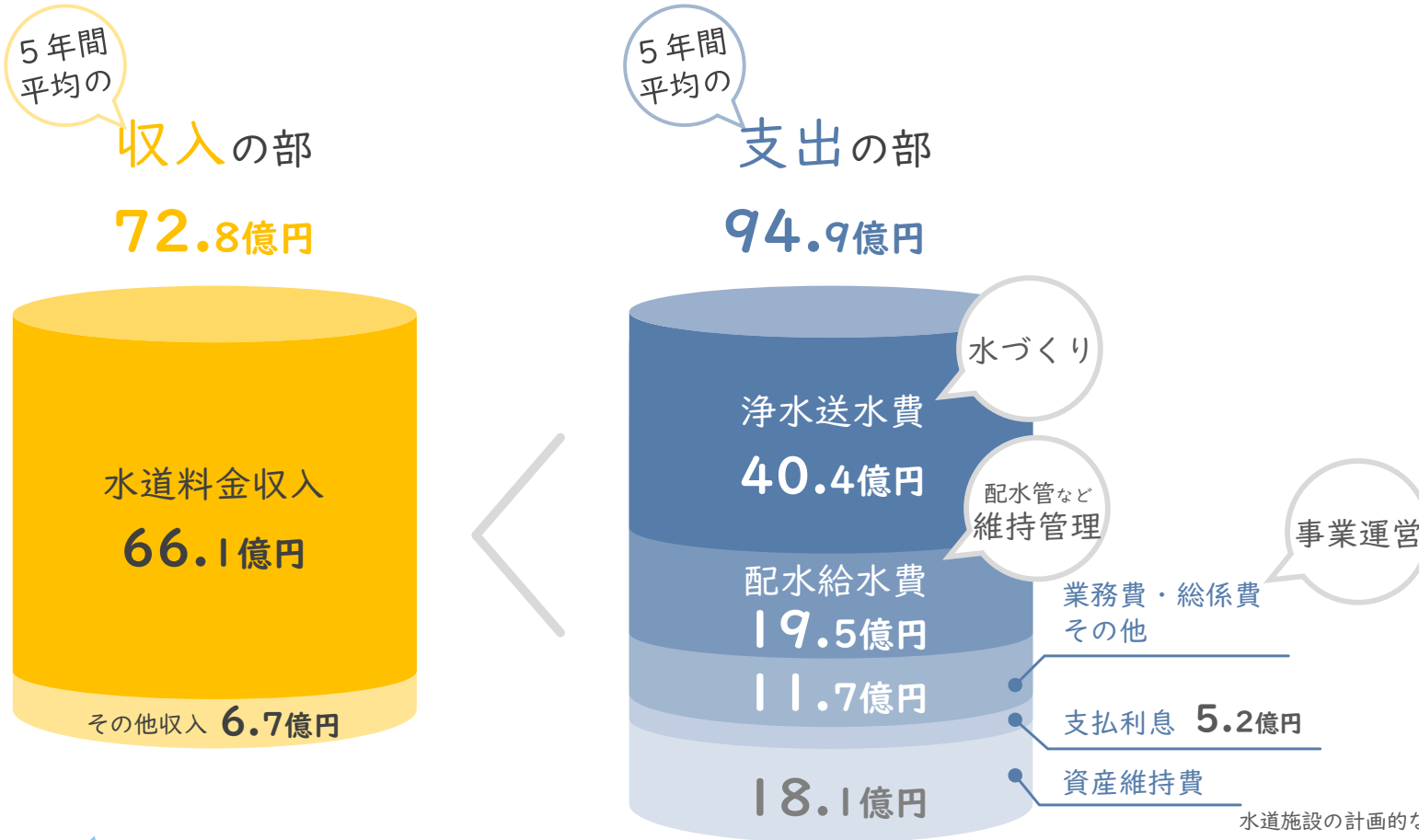
「料金が、能率的な経営の下における**適正な原価に照らし、健全な経営を確保することができる公正妥当なものであること**」



P.72

(3)
原価計算

令和9年度（2027年度）から令和13年度（2031年度）まで
5年間の収支から算出した
水道事業の費用に対する**料金収入**の状況

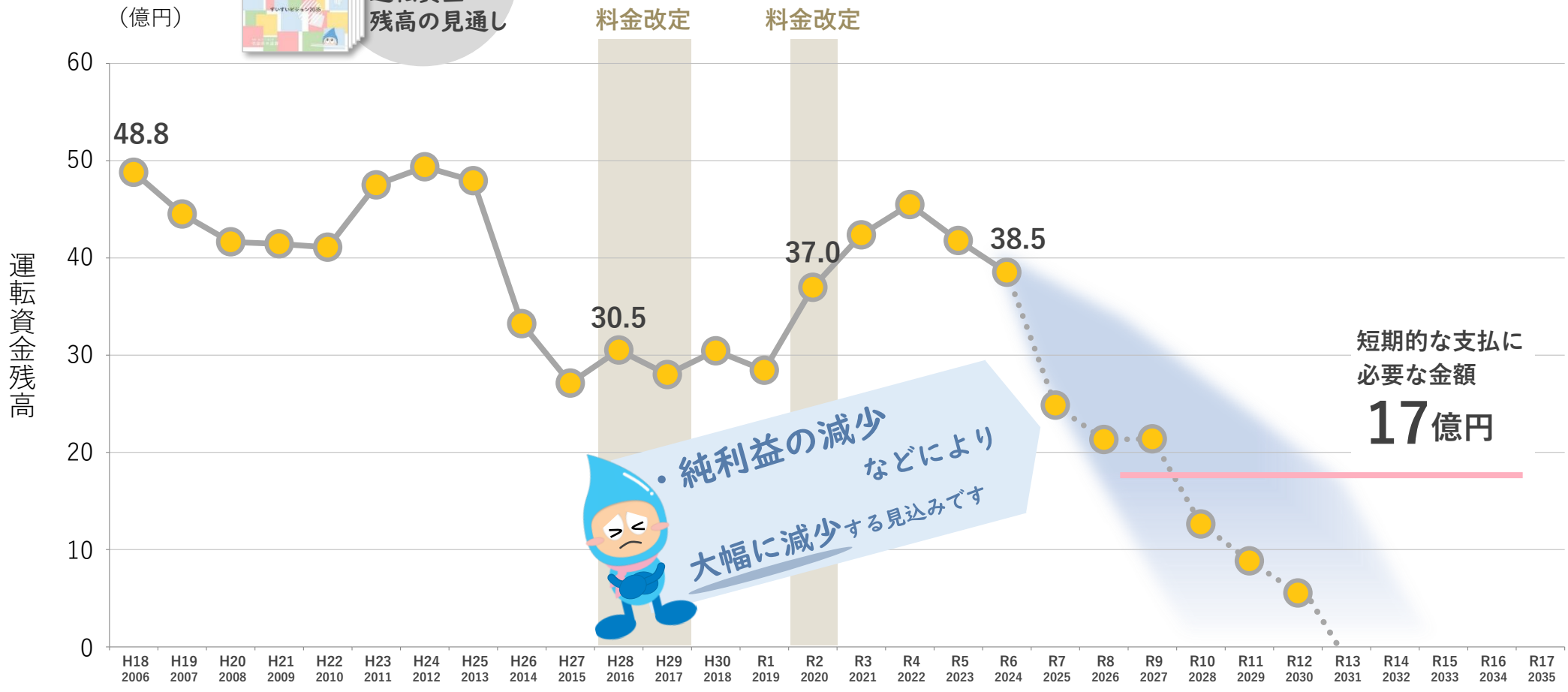


現行の料金水準では、水道事業の運営に掛かる費用を
回収できない結果になっています





P.72 (2) 運転資金残高の見通し



凡例

運転資金残高

- 実績値
- すすいビジョン2035_推計値 (R7決算見込み・R8当初予算反映)

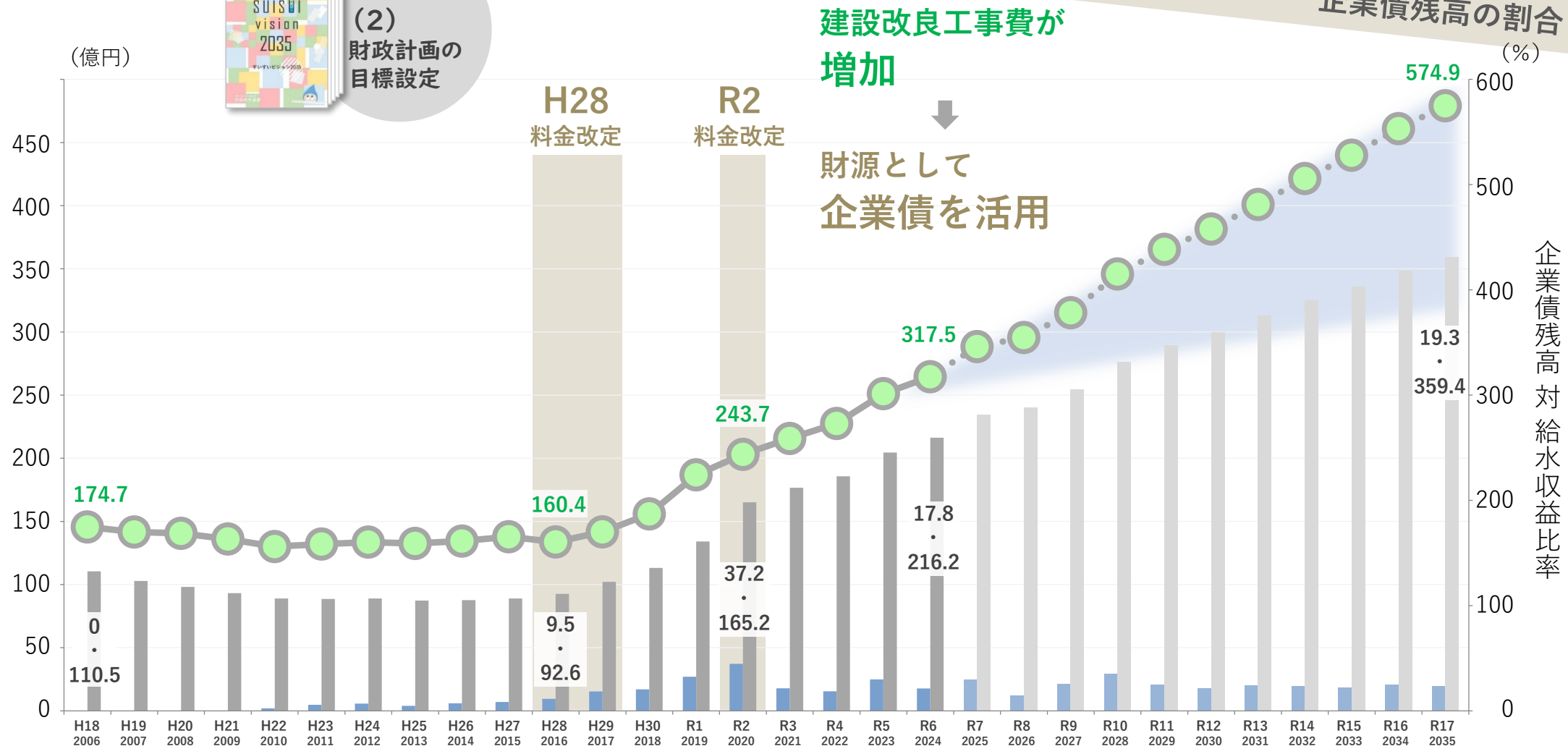
物価変動などを含んだ変動幅を示しています



P.73
(2) 財政計画の
目標設定

給水収益に対する
企業債残高の割合

企業債残高・企業債借入額



凡例

企業債残高

- 実績値 (Dark Grey Bar)
- すいすいビジョン2035_推計値 (Light Grey Bar) (R7決算見込み・R8当初予算反映)

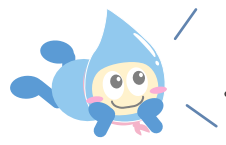
企業債借入額

- 実績値 (Blue Bar)
- すいすいビジョン2035_推計値 (Light Blue Bar) (R7決算見込み・R8当初予算反映)

0
・
110.5
当該年度末時点の企業債残高 (億円)

給水収益に対する企業債残高の割合

- 実績値 (Green Circle with Line)
- すいすいビジョン2035_推計値 (Dotted Green Circle with Line) (R7決算見込み・R8当初予算反映)



費用削減の取組



機能集約



泉浄水所の機能を片山浄水所へ集約



泉浄水所の更新費用削減

約 **80**億円



広域連携



豊中市柿ノ木配水場の共同化



蓮間配水場の更新費用削減

約 **16**億円



官民連携



施設の更新工事と維持管理業務を一体的に発注

維持管理業務の費用削減

約 **2**億円



中長期的な視点から水道施設整備や維持管理に係る 費用の削減 につながる取組を実施しています



収入確保の取組など



国庫補助金の活用

R5～R7見込み **1.2億円**

小水力発電の運用

R8予算 **170万円**

情報発信の充実（SNSの活用）



補助金の活用など **料金収入以外の財源確保** に向けた取組を実施しています

また、水道事業に関心を持ってもらえるような **情報発信も積極的に実施** しています



近年の全国・大阪府における
料金改定の実施状況



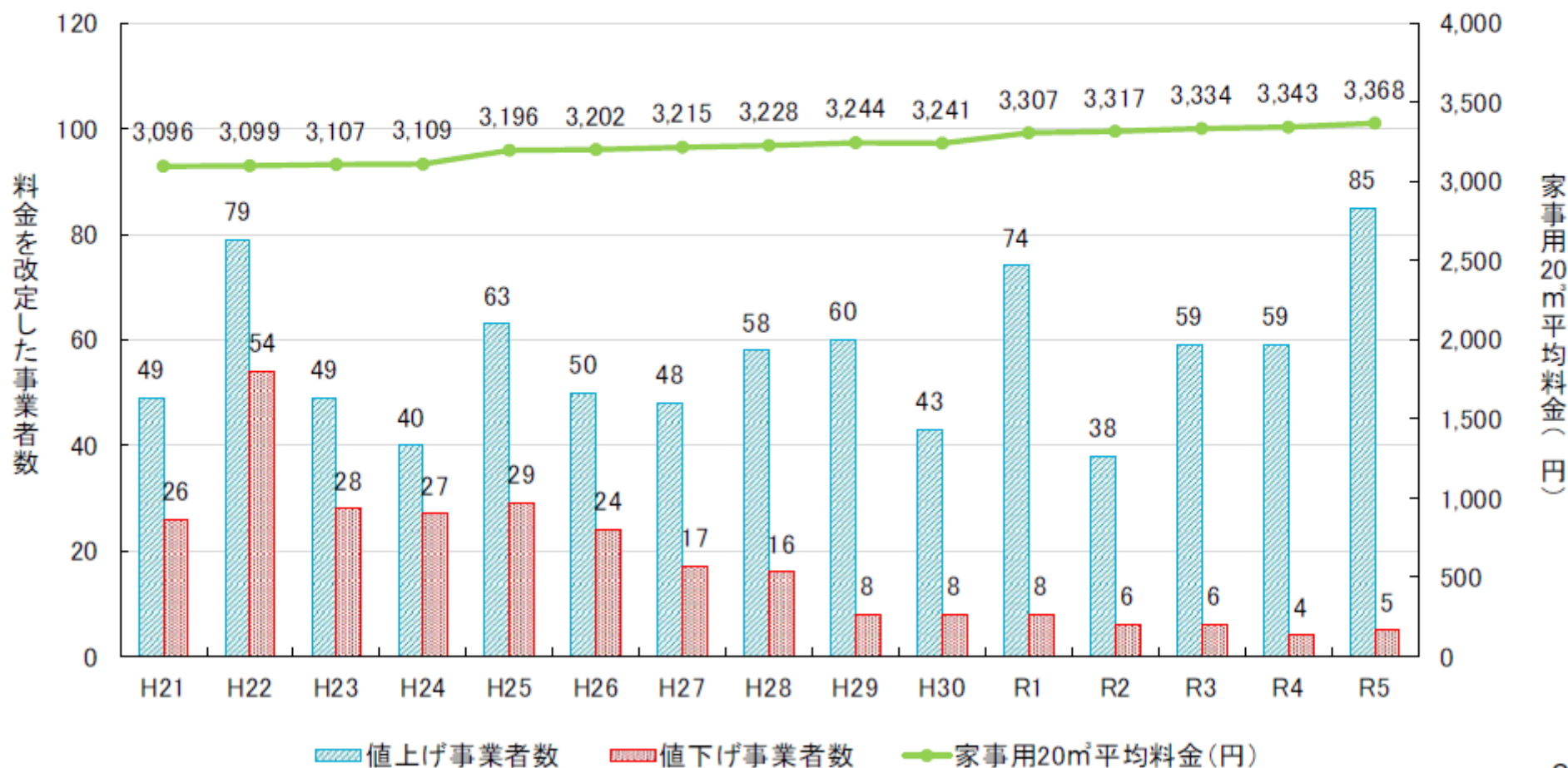
1. 水道経営(水道料金、水道カルテ)

水道料金の改定状況

- 水道料金の平均は近年わずかに上昇傾向にあり、値下げ事業者数は減少傾向にある

※令和2年度は料金改定事業者数が直近15年間で最も少なかったが、新型コロナウイルス感染症の影響等によるものと考えられる

- 事業運営のために本来必要となる水道料金の値上げを実施しない場合、一般会計からの繰入れ(税金)による対応をとらない限り、老朽化した施設の更新などに必要となる財源を十分確保することができず、漏水等のリスクを抱える可能性が高くなる。

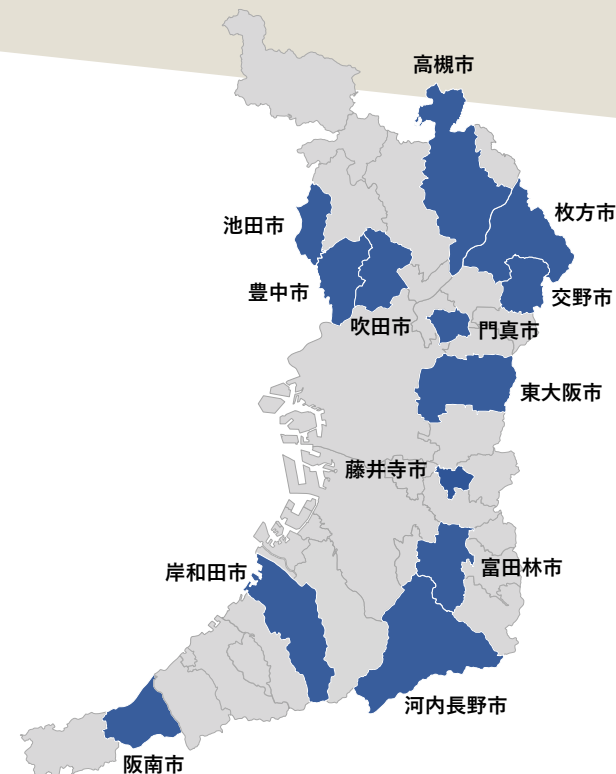


【出典】「水道料金表(令和6年4月1日現在)」公益社団法人日本水道協会

【出典】「令和7年度 全国水道主管課長会議 資料」国土交通省ホームページより

料金改定の状況 (大阪府内)

	平均改定率 (%)	改定実施 年/月
吹田市	15.2	令和2年4月～
藤井寺市	約10	令和2年10月～
門真市	▲9.1	令和3年1月～
枚方市	用途別から口径別料金への変更など	令和3年4月～
富田林市	15.0	令和3年10月～
	10.0	令和7年10月～
池田市	4.7	令和6年1月～
交野市	約16	令和6年4月～
岸和田市	約19	令和6年4月～



	平均改定率 (%)	改定実施 年/月
豊中市	8.9	令和7年2月～
河内長野市	21.2	令和7年10月～
東大阪市	約19	令和7年10月～
高槻市	約15	令和7年10月～
阪南市	14.4	令和8年4月～

順位	使用水量		順位	使用水量		順位	使用水量		順位	使用水量	
	6 m ³ /月	料金(円/月)		10 m ³ /月	料金(円/月)		20 m ³ /月	料金(円/月)		30 m ³ /月	料金(円/月)
1	羽曳野市	635	1	大阪狭山市	860	1	大阪市	1,920	1	大阪市	3,160
2	摂津市	680	2	羽曳野市	895	2	枚方市	2,082	2	枚方市	3,492
3	枚方市	684	3	門真市	895	3	貝塚市	2,190	3	茨木市	3,500
4	柏原市	698	4	枚方市	902	4	茨木市	2,200	4	貝塚市	3,940
5	箕面市	735	5	柏原市	935	5	堺市	2,240	5	和泉市	3,990
6	松原市	760	6	八尾市	940	6	和泉市	2,340	6	堺市	4,060
7	和泉市	775	6	藤井寺市	940	7	寝屋川市	2,364	7	守口市	4,158
8	東大阪市	780	6	貝塚市	940	8	高槻市	2,380	8	大東市	4,186
9	富田林市	795	9	池田市	950	9	大東市	2,386	9	寝屋川市	4,194
10	池田市	800	9	大阪市	950	10	守口市	2,398	10	摂津市	4,275
11	八尾市	804	11	泉大津市	958	11	柏原市	2,435	11	柏原市	4,355
12	泉大津市	806	12	和泉市	960	12	大阪狭山市	2,460	12	大阪狭山市	4,380
13	高石市	828	13	寝屋川市	964	13	門真市	2,475	13	高槻市	4,430
14	高槻市	840	14	高槻市	980	14	羽曳野市	2,495	14	羽曳野市	4,495
15	守口市	856	15	大東市	986	15	池田市	2,500	15	高石市	4,496
16	大阪狭山市	860	16	箕面市	987	16	八尾市	2,520	16	泉南市	4,545
17	堺市	872	17	堺市	1,020	17	摂津市	2,525	17	吹田市	4,550
18	藤井寺市	880	18	四條畷市	1,027	18	吹田市	2,550	18	門真市	4,555
19	門真市	895	19	守口市	1,058	19	豊中市	2,580	19	箕面市	4,587
20	岸和田市	900	20	摂津市	1,075	20	高石市	2,646	20	泉佐野市	4,590
21	大阪市	910	21	富田林市	1,132	21	四條畷市	2,657	21	池田市	4,650
22	貝塚市	940	22	東大阪市	1,134	22	箕面市	2,667	22	岸和田市	4,720
22	泉佐野市	940	23	泉佐野市	1,140	23	泉佐野市	2,740	23	豊中市	4,730
24	寝屋川市	964	24	吹田市	1,150	24	東大阪市	2,784	24	四條畷市	4,737
25	大東市	986	25	松原市	1,170	25	富田林市	2,812	25	八尾市	4,770
26	吹田市	990	26	高石市	1,196	26	松原市	2,840	26	富田林市	4,882
27	阪南市	1,010	27	豊中市	1,230	27	阪南市	2,866	27	阪南市	4,926
28	四條畷市	1,027	28	河内長野市	1,244	28	岸和田市	2,870	28	交野市	5,012
28	泉南市	1,027	29	阪南市	1,272	29	泉大津市	2,908	29	松原市	5,020
30	河内長野市	1,064	30	岸和田市	1,290	30	泉南市	2,945	30	東大阪市	5,044
31	豊中市	1,134	31	茨木市	1,400	31	藤井寺市	2,980	31	泉大津市	5,188
32	交野市	1,165	32	交野市	1,442	32	交野市	3,122	32	藤井寺市	5,330
33	茨木市	1,180	33	泉南市	1,575	33	河内長野市	3,284	33	河内長野市	5,444

(税抜)

府内33市における 水道料金比較

(メーター口径20mm)
(令和7年10月時点)

口座振替割引制度を
「適用した」場合

請求当たり100円割引

↑

請求=2か月

1か月当たり50円割引と仮定



第15次水道事業経営審議会において

諮問「健全経営の持続に向けた考え方と料金水準について」
に関する今後の審議予定内容

第5回
(R7.11.21)

- 諮問「健全経営の持続に向けた考え方と料金水準について」

第6回
(本日)

- 投資財政計画（シミュレーション条件、収益的収支と資本的収支、経営努力の取組など）
- 近年の料金改定実施状況（全国・大阪府）

次回
第7回
(R8.5月頃)

- 水道料金算定の仕組み（総括原価方式など）
- 料金算定シミュレーションの提示（シミュレーション案、基本料金割合と逓増度など）

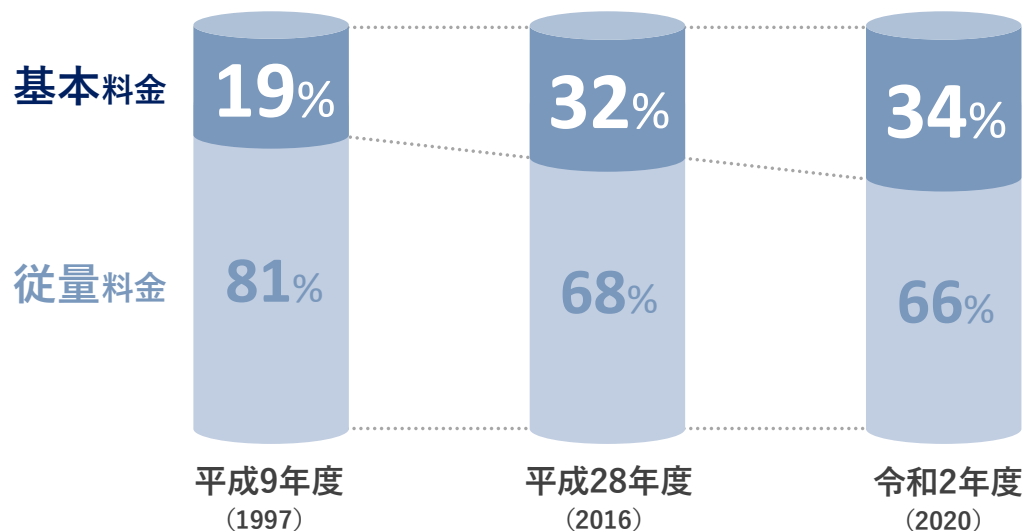
第8回
(R8.7月頃)

- 諮問審議の意見整理
- 答申案 その他審議

第9回
(R8.9月頃)

- 答申

基本料金の割合は？



逓増度を緩和する？

料金改定 実施年度	平成9年度 (1997)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	令和2年度 (2020)
逓増度	4.5	3.6	3.3	2.9
最高単価	350円	310円	310円	330円
最低単価	77円	86円	94円	115円



第7回審議のポイント

本日(第6回)の内容を踏まえた、料金シミュレーションをお示しします。

基本料金割合や逓増度、企業債借入れへの考え方など
現世代と将来世代の負担のあり方と
いった観点からもご審議いただくことを考えています

企業債借入れの考え方は？

